

3月15日

加藤周一・井上ひさし・小森陽一 座談会昭和文学史⑩ 大正から昭和へ―近代を物語る言葉―「すばる」 第19巻第4号4月号 110～159頁 集英社 '97(平成9)年4月1日

↓『座談会昭和文学史第一巻』収録 第1章大正から昭和へ近代を物語る言葉 9～114頁 井上ひさし・小森陽一編著者 集英社 '03(平成15)年9月10日

小田切秀雄・島村 輝・井上ひさし・小森陽一 座談会昭和文学史⑩ プロレタリア文学―弾圧下の文学者たち―「すばる」 第19巻第10号10月号 140～190頁 集英社 '97(平成9)年10月1日

↓『座談会昭和文学史第一巻』収録 第4章プロレタリア文学 弾圧下の文学者たち 323～437頁 井上ひさし・小森陽一編著者 集英社 '03(平成15)年9月10日

一九九八(平成十)年

川端香男里・保昌正夫・井上ひさし・小森陽一 座談会昭和文学史⑩ 横光利一と川端康成―「新感覚派」の旗手―「すばる」 第20巻第1号1月号 238～289頁 集英社 '98(平成10)年1月1日

↓『座談会昭和文学史第一巻』収録 第5章横光利一と川端康成 「新感覚派」の旗手 439～557頁 井上ひさし・小森陽一編著者 集英社 '03(平成15)年9月10日

小田切秀雄 『日本文学の百年』第二章現代文学の開花 61頁 横光利一―新感覚派としての仕上げ 136～137頁 東京新聞出版局 '98(平成10)年10月28日

張 競 『本読みの達人が選んだ「この3冊」』 上海の本 ①

上海(横光利一著) ②人間の条件(アンドレ・マルロー著)
③上海の長い夜(上・下)(鄭念著) 丸谷才一編 毎日新聞社 '98(平成10)年10月30日

年10月1日

田口律男 新感覚派文学という現象 「大正文学」 4 特集関

東大震災と文学 5～23頁 編者伊狩弘・五十嵐伸治・千葉

正昭 大正文学会 '95 (平成7) 年10月31日

デニス・キーン 『私の選んだ文庫ベスト3』 横光利一①上海

②紋章③愛の挨拶・馬車・純粹小説論 153～154頁 丸谷才一

編 毎日新聞社 '95 (平成7) 年12月25日

一九九六(平成八)年

小田桐弘子 「旅愁」とその時代―二・二六事件とスペイン内戦

をめぐって― 「福岡女学院大学紀要」 第6号 3～31頁

福岡女学院大学 '96 (平成8) 年2月29日

↓ 『横光利一―比較文化的研究―』 収録 第6章 『旅愁』と

その時代―二・二六事件とスペイン内戦をめぐって― 102～

132頁 南窓社 '00 (平成12) 年4月30日

李 征 横光利一 『上海』 における五・三〇運動の描写をめぐ

って― 同時代関係史料との比較をとおして― 「文学研究論

集」 第13号 赤祖父哲二先生退官記念 73～103頁 (174～144

頁) 筑波大学比較・理論学会 '96 (平成8) 年3月20日

↓ 『中国関係論説資料 第39号 1997年 (平成9年) 分 第2

分冊(下) 「文学・語学」 収録 横光利一 『上海』 における

五・三〇運動の描写をめぐって― 同時代関係史料との比較を

とおして― 252～267頁 論説資料保存会 '99 (平成11) 年1

月30日

↓ 『表象としての上海―日本と中国の新感覚派文学運動に関

する比較文学的研究―』 収録 第一部新感覚派文学の風土と

同時代の日中文学―横光利一の『上海』を中心に― 第

一章 『上海』 論(二) 五・三〇運動の同時代史料と小説の虚

構の間 15～40頁 東洋書林 '01 (平成13) 年2月20日

渋谷香織 「伝統と創造」 横光利一 「春園」 試論―もうひとつ

の『旅愁』― 266～282頁 鳥居フミ子編 勉誠社 '96 (平成

8) 年3月31日

金 文洙 横光利一 「上海」 論― (新しき文学) への試み 「研

究と資料」 第35輯 59～71頁 研究と資料の会 '96 (平成

8) 年7月30日

石田仁志 堀田善衛 『広場の孤独』 論―横光利一からの承継―

「論樹」 第10号 193～202頁 東京都立大学大学院人文科学研

究科国文学研究室 論樹の会 '96 (平成8) 年9月30日

上野俊哉・小森陽一・酒井直樹・成田龍一 (座談会) 転位す

る文化研究 「思想」 1996年第10号 第868号 4～30頁 岩波

書店 '96 (平成8) 年10月5日

滝澤 壽 横光利一のフランス― 『旅愁』 をめぐって― 「クイ

ンテット QUINTELETTE」 第20号 57～82頁 「クインテ

ット」 刊行会 '96 (平成8) 年12月15日

濱川勝彦 『旅愁』 に於ける「青春」― 『旅愁』 論(二) 「奈

良女子大学研究年報」 第40号 1～16頁 奈良女子大学文

学部 '96 (平成8) 年12月31日

↓ 『論攷横光利一』 収録 I 第七章 「旅愁」 II 「旅愁」 に

於ける〈青春〉 193～215頁 近代文学研究叢刊24 和泉書院

'01 (平成13) 年3月30日

一九九七(平成九)年

遠藤郁子 研究ノート 横光利一 「時間」 について 「文研論集」

第29号 155～167頁 専修大学大学院学友会 '97 (平成9) 年

どこに在るのか—教育・政治・哲学— 140～149頁 岩波書店
'94 (平成6) 年10月11日

↓『フランスの誘惑—近代日本精神史試論』収録 V日本への回帰—横光利一『旅愁』をめぐって— 1～7 143～217頁
『5』7 194～217頁、注V(10) 322～322頁 岩波書店 '95 (平成7) 年10月26日

中村和恵 『日本文学における(他者)』IV横光利一『純粹小説論の内なる他者』246～275頁 鶴田欣也編 新曜社 '94 (平成6) 年11月18日

↓『日本文学研究論文集成38 横光利一』収録 横光利一『純粹小説論』の内なる他者 181～200頁 田口律男編 若草書房 '99 (平成11) 年3月21日

小田桐弘子 『受容と創造—比較文学の試み』横光利一『家族会議』試論—パブルとモラル— 213～231頁 江頭彦造編 宝文館出版 '94 (平成6) 年12月25日

一九九五(平成七)年

赤瀬雅子 描かれた上海—1900～1931—「国際文化論集」第11号

3～26頁 編集集桃山学院大学国際文化学会 発行桃山学院大学総合研究所 '95 (平成7) 年1月30日

↓『比較文学・比較文化—フランス文学・フランス文化の影響—』収録 第三章船旅・港を通して眺めた日本近代文学

3 描かれた上海—1900～1931 117～137頁 産研叢書5 桃山学院大学総合研究所 '95 (平成7) 年10月20日

小田桐弘子 横光利一『家族会議』試論 「福岡女学院大学紀要」第5号 27～40頁 福岡女学院大学 '95 (平成7) 年2月28日

↓『横光利一—比較文化的研究—』収録 第4章『家族会議』試論—経済性と道徳性— 61～78頁 南窓社 '00 (平成12) 年4月30日

伴悦 『日輪』について 「国文学論輯」第16号 101～116頁 国士館大学国文学会 '95 (平成7) 年3月5日

↓『横光利一文学の生成—終わりなき揺動の行跡』収録 「日輪—両性抱合の完全境地を求めて」26～40頁 おうふう '99 (平成11) 年9月25日

神谷忠孝 新刊紹介 保昌正夫著『横光利一見聞録』 「国文学解釈と鑑賞」第60巻第6号6月号 特集樋口一葉—新たな一葉像へ向けて 177～177頁 至文堂 '95 (平成7) 年6月1日

リピット水田清爾 「評論Ⅲ」モダニズムにおけるグロテスクと小説の解体について 「批評空間」第Ⅱ期第7号 198～210頁 太田出版 '95 (平成7) 年10月1日

茂木雅夫 『横光利一の表現世界—日本の小説—』序 1～3頁

第二章外国文学と横光の文学 外国文学と日本の小説 136～173頁 「3、ドストエフスキー—罪と罰—(一八六六)」 145～148頁 6、小説について 159～173頁

第三章文学史における横光 近代の横光 181～187頁

近代の横光 4、『機械』 200～206頁

近代の横光 5、『上海』 206～213頁

第三章文学史における横光 横光文学の時代的価値 237～261頁

第三章文学史における横光 横光と境遇 262～279頁 「大正十五年より昭和四年まで 267～270頁」 勉誠社 '95 (平成7)

書② 横光利一 前衛作家の心得説く 1018頁 第45巻第5号
5月号 日本経済新聞社 '93 (平成5) 年6月20日
↓『私の履歴書』収録 横光利一 67〜69頁 ふらんす堂
'97 (平成9) 年1月1日
↓『全ての人は過ぎて行く』収録 一、私の履歴書 21横光
利一 68〜70頁 新潮社 '98 (平成10) 年4月15日

一九九四(平成六)年

伴悦 「ナポレオンと田虫」について 「国文学論輯」 第15
号 81〜95頁 国士舘大学国文学会 '94 (平成6) 年3月5
日

↓『横光利一文学の生成―終わりなき揺動の行跡』収録 「ナ
ポレオンと田虫」―放蕩・破滅の仮面を被ったパロディ 58
〜73頁 おうふう '99 (平成11) 年9月25日

松本裕史 『横光利一について』 「鷹峯現代文学論群」 第7号
24―1〜24―9頁 仏教大学国文学科卒業論文演習二(三谷
ゼミ) '94 (平成6) 年3月7日

神谷忠孝 昭和文学と虚無思想 「国語国文研究」 第95号 58
〜65頁 北海道大学国語国文学会 '94 (平成6) 年3月23日

佐野正人 一九三〇年・東京・上海・京城 「比較文学」 第36
巻 42〜53頁 日本比較文学会 '94 (平成6) 年3月31日
↓『日本文学研究論文集成38 横光利一』収録 一九三〇年・
東京・上海・京城 77〜89頁 田口律男編 若草書房 '99
(平成11) 年3月21日

渡辺一民 日本への回帰(上)―横光利一『旅愁』をめぐる
― 1〜2 「季刊文学」 第5巻第2号 1994春 特集Ⅱ透谷
の百年 142〜152頁 岩波書店 '94 (平成6) 年4月11日

↓『フランスの誘惑―近代日本精神史試論』収録 V日本へ
の回帰―横光利一『旅愁』をめぐる 1〜7 143〜217頁
注321〜322頁 「1〜2 143〜167頁、注V(1)〜(5) 321〜
322頁」 岩波書店 '95 (平成7) 年10月26日

塚谷裕一 連載・花のある文学誌⑥ 横光利一の石斛セッコク「園芸新
知識」 第49巻第6号花の号 35〜36頁 タキイ種苗株式会
社出版部 '94 (平成6) 年6月5日

↓『異界の花―ものがたり植物図鑑』収録 初夏・夏ト
ンネルの石斛―横光利一 72〜75頁 マガジンハウス '96
(平成8) 年7月25日

柚谷英紀 横光利一『無礼な街』試論―新感覚派的表現の必然
性― 「日本文芸研究」 第46巻第1号 22〜32頁 関西学院
大学日本文学会 '94 (平成6) 年6月10日

渡辺一民 日本への回帰(中)―横光利一『旅愁』をめぐる
― 3〜4 「季刊文学」 第5巻第3号 1994夏 特集メデイ

アの造形性 108〜119頁 岩波書店 '94 (平成6) 年7月11日
↓『フランスの誘惑―近代日本精神史試論』収録 V日本へ
の回帰―横光利一『旅愁』をめぐる― 1〜7 143〜217頁
「3〜4 168〜193頁、注V(6)〜(9) 322〜322頁」 岩波
書店 '95 (平成7) 年10月26日

辻邦生 『新潮日本文学アルバム43 横光利一』(エッセイ)
横光利一からの光 97〜103頁 井上謙編 新潮社 '94 (平成
6) 年8月10日

↓『微光の道』収録 IV日本文学 横光利一からの光 257〜
262頁 新潮社 '01 (平成13) 年4月25日

渡辺一民 日本への回帰(下)―横光利一『旅愁』をめぐる
― 5〜7 「季刊文学」 第5巻第4号 1994秋 特集サドは

第127集 51～59頁 東北大学文学部国語国文学研究室内 日本文芸研究会 '91(平成3)年5月31日

↓『日本文学研究論文集』38 横光利一「収録」『花花』と『純粋小説』のアナトミー 201～213頁 田口律男編 若草書房

'99(平成11)年3月21日

春名 徹 上海の魯迅—一九二九年一月二十六日「月刊しにか」第2巻第9号9月号 通巻18号 特集魯迅と日本 15～19頁 大修館書店 '91(平成3)年9月1日

野村忠男 Book MAN 予想を越える様々な反響 「図書新聞」通巻2073号 ②面 図書新聞 '91(平成3)年10月12日(土曜日)

濱川勝彦 横光利一『蠅』・『頭ならびに腹』をめぐって—蠅・子僧と構図を中心に—「叙説」第18号 81～97頁 奈良女子大学国語国文学研究室 '91(平成3)年12月25日

↓『国文学年次別論文集近代3平成3(1991)年』収録 横光利一『蠅』・『頭ならびに腹』をめぐって—蠅・子僧と構図を中心に— 442～450頁 学術文献刊行会編 朋文出版 '93(平成5)年7月

↓『論攷横光利一』収録 I 第三章「蠅」・「頭ならびに腹」再論—蠅・子僧と構図を中心に— 73～94頁 近代文学研究叢刊24 和泉書院 '01(平成13)年3月30日

一九九二(平成四)年

栗坪良樹 書評 菅野昭正著『横光利一』—精読者の誠実について「国語と国文学」第69巻第2号2月号 通巻818号 68～72頁 東京大学国語国文学会編 至文堂 '92(平成4)年2月1日

神谷忠孝 『昭和の長編小説』横光利一『旅愁』—空虚という主題— 183～204頁

梗概 205～206頁 安川定男編 至文堂 '92(平成4)年7月15日

酒井直樹 〈近代日本のアジア認識〉 文化的差異の分析論と日本という内部性「情況」第Ⅱ期第3巻第10号12月号 特集アジア—諸民族と日米対立 82～117頁 情況出版 '92(平成4)年12月1日

↓『日本思想という問題 翻訳と主体』収録 IV 文化的差異の分析論と日本という内部性—主体そして／あるいはシユタイと国民文化の刻印— 143～205頁 「四 和辻哲郎における同一化と否認 165～183頁」 岩波書店 '97(平成9)年3月14日

一九九三(平成五)年

伴悦「鳥」と「機械」をめぐって「国文学論叢」第14号 25～40頁 国士舘大学国文学会 '93(平成5)年3月5日

↓『国文学年次別論文集近代3平成5(1993)年』収録「鳥」と「機械」をめぐって 503～510頁 学術文献刊行会編 朋文出版 '95(平成7)年7月

↓『横光利一文学の生成—終わりなき揺動の行跡』収録「鳥」と「機械」—「人間の機械」論の実践化と科学の暴力 122～137頁 おうふう '99(平成11)年9月25日

中村真一郎 文化 私の履歴書② 横光利一 前衛作家の心得 説く「日本経済新聞」朝刊 第三八六三二号 36面 日本経済新聞社 '93(平成5)年5月22日「土曜日」

↓『日本経済新聞縮刷版1993年5月号』収録 文化 私の履歴

本近代文学」第41集 50～62頁 日本近代文学会 '89 (平成1)年10月15日

↓『日本文学研究論文集成38 横光利一』収録 横光利一「機械」「寝園」―短編から長編へ― 152～168頁 田口律男編 若草書房 '99 (平成11)年3月21日

一九九〇(平成二)年

平岡敏夫 『舞姫』への遠い旅―ヨーロッパ・アメリカ・中国文学紀行― 中国編 三度目の上海 233～242頁 大修館書店 '90 (平成2)年5月10日

十重田裕一 新刊紹介 栗坪良樹著『横光利一論』 「国文学研究」第101集 99～99頁 早稲田大学国文学会 '90 (平成2)年6月15日

高柴慎治 『「ころこ」とばに東西の接点を求めて』 スカトロジ 糞尿譚

あるいは溢れでる混沌 209～241頁 国際関係学双書7 東郷

吉男・中村生雄編著者 北樹出版 '90 (平成2)年7月30日

神谷忠孝 書評 栗坪良樹著『横光利一論』 「国文学研究」第102集 文学部創設百周年記念 410～412頁 早稲田大学国文学会 '90 (平成2)年10月15日

田口律男 『短編の愉楽1 近代小説のなかの都市』 機械・横光利一 175～197頁 「テキスト・解説 175～175頁」 有精堂編集部 有精堂出版 '90 (平成2)年12月15日

伴悦 『上海』について―「群衆の幅」を呼吸する都市小説― 「文学年誌」第10号 121～152頁 発行所文学批評の会 発売元葦真文社 '90 (平成2)年12月15日

↓『横光利一文学の生成―終わりなき揺動の行跡』収録 「上海」―「群衆の幅」を呼吸する都市小説 90～121頁 おうふ

う '99 (平成11)年9月25日

一九九一(平成三)年

井上謙 書評 栗坪良樹著『横光利一論』 「国語と国文学」第68巻第1号1月号 通巻804号 73～76頁 東京大学国語文学会 発行所至文堂 '91 (平成3)年1月1日

堀井謙一 思想小説としての『上海』 「日本文学」第40巻第1号 小特集(作者)・(作家) 67～78頁 日本文学協会 '91 (平成3)年1月10日

↓『日本文学研究論文集成38 横光利一』収録 思想小説としての『上海』 90～106頁 田口律男編 若草書房 '99 (平成11)年3月21日

杉野要吉 書評 平岡敏夫著『昭和文学史の残像IⅡ』 「国語と国文学」第68巻第2号2月号 通巻805号 66～72頁 東京大学国語国文学会 発行所至文堂 '91 (平成3)年2月1日

小田桐弘子 日本回帰―横光利一の場合― 「福岡女学院大学紀要」第1号 創刊記念号 3～24頁 福岡女学院大学 '91 (平成3)年2月28日

↓『横光利一―比較文化的研究―』収録 第7章日本回帰―横光利一の場合― 133～162頁 南窓社 '00 (平成12)年4月30日

栗坪良樹 作家・作品という両立価値 「海燕」第10巻第5号

5月号 200～201頁 福武書店 '91 (平成3)年5月1日

栗坪良樹 書評 菅野昭正『横光利一』 「芸芸」第30巻第2号 346～347頁 河出書房新社 '91 (平成3)年5月1日

中村三春 『花花』と(純粹小説)のアナトミー 「芸芸研究」

出版 '90 (平成2) 年1月25日

↓『舞姫』への遠い旅—ヨーロッパ・アメリカ・中国文学
紀行—収録 中国編 上海再訪 222〜227頁 大修館書店
'90 (平成2) 年5月10日

一九八六 (昭和六十二) 年

篠田一士 茅盾『子夜』—二十世紀の十大小説(八)— I〜III

「新潮」第83巻第9号9月号 216〜227頁 新潮社 '86 (昭和
61) 年9月1日

茅盾『子夜』—二十世紀の十大小説(九)— III (承前)〜V

「新潮」第83巻第10号10月号 230〜241頁 新潮社 '86 (昭和
61) 年10月1日

↓『二十世紀の十大小説』収録 『子夜』(茅盾) 199〜234頁
新潮社 '88 (昭和63) 年11月25日

一九八七 (昭和六十二) 年

濱川勝彦 横光利一・『上海』論—参木の人物像を中心に—
「人間文化研究科年報」第2号 1〜11頁 通頁114〜104頁

奈良女子大学大学院人間文化研究所 '87 (昭和62) 年3月31
日

↓『論攷横光利一』収録 1 第五章「上海」二 137〜156
頁 近代文学研究叢刊24 和泉書院 '01 (平成13) 年3月30
日

小森陽一 I 大正から昭和へ 都会文学の成立と展開 「国文
学解釈と教材の研究」第32巻第10号8月号 特集昭和文学
再検討 36〜37頁 学燈社 '87 (昭和62) 年8月20日

一九八八 (昭和六十三) 年

井上謙 横光利一研究今昔「遠山諦虔先生勤続三十五年記
念論文集」21〜38頁 日本大学理工学部一般教育人文研究
室 '88 (昭和63) 年6月1日

一九八九 (平成1) 年

前田角蔵 浮遊する主体の方向—「皮膚」「肉体」の発見とし

ての『上海』—「日本文学」第38巻第1号 特集日本文学
と天皇制 57〜71頁 日本文学協会 '89 (平成1) 年1月10
日

↓『文学の中の他者—共存の深みへ』収録 II 救済を求め
る 男たちの群像—立身出世、女性、民族 3 民族という観念
への回帰—「上海」論 72〜97頁 菁柿堂発行所 星雲社発
売 '98 (平成10) 年9月20日

濱川勝彦 第五十九回例会発表要旨 横光利一『上海』をめぐ
って「東海近代文学会会報」第14号 10〜11頁 東海近代
文学会 '89 (平成1) 年3月25日

沖野厚太郎 メタ小説・反探偵小説—「機械」「文芸と批評」

第6巻第10号 通巻60号 41〜55頁 早大文学部五七六研究
室内 文芸と批評の会 '89 (平成1) 年9月25日

濱川勝彦 『上野高等学校は今—上野高等学校創立九十周年記
念誌—』横光利一・文学の軌跡 59〜69頁 三重県立上野
高等学校 '89 (平成1) 年10月3日

↓『論攷横光利一』収録 横光利一・文学の軌跡—「序」に
代えて— 1〜21頁 近代文学研究叢刊24 和泉書院 '01
(平成13) 年3月30日

松村良 横光利一「機械」「寝園」—短編から長編へ—「日

一九八〇（昭和五十五）年

荻久保泰幸 「書評」小田桐弘子著『横光利一 比較文学的考察』
「国学院雑誌」 第81巻第8号 通巻880号 59～62頁 国学院
'80（昭和55）年8月15日

一九八一（昭和五十六）年

村松定孝 書評 創造と受容の証し 小田桐弘子著『横光利一
— 比較文学的研究』「ソフィア」 1980年冬季号 第29巻4号
通巻116号 79～81頁 上智大学 '81（昭和56）年1月15日

大岡昇平 横光先生の初期作品「文芸」 第20巻第10号10月号
特集横光利一再読 170～172頁 河出書房新社 '81（昭和56）
年10月1日

↓『女性と文学の誕生』収録 II 横光先生の初期作品 125
～129頁 新潮社 '82（昭和57）年9月15日

↓『大岡昇平全集17 評論IV』収録 横光先生の初期作品
744～747頁 筑摩書房 '95（平成7）年5月20日

一九八二（昭和五十七）年

磯田光一 横光利一という問題 「朝日新聞」 第三四八二九号
夕刊 文化欄(5)面 朝日新聞東京本社 '82（昭和57）年12月
17日「金曜日」

↓『朝日新聞縮刷版昭和57年12月号』収録 横光利一という
問題 645～645頁 通巻738号 朝日新聞社 '83（昭和58）年1
月20日

一九八三（昭和五十八）年

金井景子 『浅草紅団』の世界 「文芸と批評」 第5巻第8号

通巻48号 54～66頁 文芸と批評の会 '83（昭和58）年2月
23日

平岡敏夫 会員通信 風景 「文芸家協会ニュース」 第387号

4～4頁 日本文芸家協会 '83（昭和58）年11月

↓『舞姫』への遠い旅—ヨーロッパ・アメリカ・中国文学
紀行— 収録 中国編 風景—紹興— 201～203頁 大修館書
店 '90（平成2）年5月10日

一九八四（昭和五十九）年

海野 弘 連載 日本の一九二〇年代—横光利一 風呂と銀行
の都市・上海 「歴史と人物」 第14年第13号12月号 通巻第
168号 特集書きなおされた古代日本 136～149頁 中央公論社
'84（昭和59）年12月1日

↓『モダン都市周遊—日本の20年代を訪ねて』収録 風呂と
銀行の都市・上海 154～176頁 中央公論社 '85（昭和60）年
6月20日

一九八五（昭和六十）年

神谷忠孝 『欧州紀行』（横光利一著）ノート 「雑誌」 第3号
近代文学者の海外体験 欧米篇 45～50頁 響文社 '85（昭
和60）年3月15日

平岡敏夫 文学紀行ガイドブック 上海 「国文学解釈と教材
の研究」 第30巻第14号11月臨時号 文学紀行ガイドブック
— 飛鳥から東京そしてパリ— 192～193頁 学燈社 '85（昭和
60）年11月25日

↓『昭和文学史の残像I』収録 第二部芥川龍之介と横光利
一（付）『上海』の背景—上海紀行— 1 86～89頁 有精堂

社 '74 (昭和49) 年5月25日

一九七五 (昭和五十) 年

木村敏雄 定着と風化―横光利一「街の底」―「群像」第30巻

第3号3月号 208〜224頁 講談社 '75 (昭和50) 年3月1日

岩尾正勝 『横光利一論』第七章「上海」―プロレタリア文学

との対決 131〜152頁

第八章「機械」の栄光と…… 153〜167頁 村松書館 '75 (昭和50) 年11月1日

一九七七 (昭和五十二) 年

井上 謙 横光利一と「修学旅行記」―「旅愁」への萌芽―

「語文」第43輯 森脇一夫先生古稀記念論文集 167〜177頁

日本大学国文学会 '77 (昭和52) 年5月10日

松下英麿 『去年の人―回想の作家たち』横光利一 122〜130頁

中央公論社 '77 (昭和52) 年8月30日

神谷忠孝 『吉行エイスケ作品集II 飛行機から墜ちるまで』

解説 221〜232頁 冬樹社 '77 (昭和52) 年11月30日

↓『日本のダダ』収録 三、ダダイストたち 吉行エイスケ

1〜5 119〜140頁 「吉行エイスケ 1〜4 119〜136頁」響

文社 '87 (昭和62) 年9月30日

千葉宜一 『横光利一の文学と生涯―没後三十年記念集―』I

横光利一の文学 「旅愁」への道―ロンドン・ペンクラブ体

験の意義― 57〜70頁 由良哲次編 桜楓社 '77 (昭和52)

年12月30日

↓『モダニズムの比較文学的研究』収録 第二部 横光利一

のロンドン・ペンクラブ体験の意義―「旅愁」への道― 125

〜135頁 おうふう '98 (平成10) 年5月25日

一九七八 (昭和五十三) 年

新月通正 『みちのく文学の旅 朝日新聞連載「一冊の旅」より』

横光利一 「旅愁」―山形県 187〜203頁 朝日ソノラマ '78

(昭和53) 年4月25日

神谷忠孝 魚眼図 横光と中国 「北海道新聞」第一三〇二八

号 夕刊 学芸(4)面 北海道新聞社 '78 (昭和53) 年10月30

日「月曜日」

↓『北海道新聞縮刷版昭和53年10月号』収録 魚眼図 横光

と中国 102頁 第12巻第10号 通巻第139 北海道新聞社 '78

(昭和53) 年11月20日

↓『北からの発信』収録 I 魚眼図 横光利一と中国 58〜

59頁 '01 (平成13) 年3月31日

一九七九 (昭和五十四) 年

鹿毛基生 『大分の歴史9 近・現代2 戦争から繁栄へ』激動

の幕あけ 戦時下の文化 128〜150頁 「横光利一 133〜136頁」

著者富来隆他 製作大分合同新聞文化センター 発行大分合

同新聞社 発売大分合同サービス社 '79 (昭和54) 年4月20

日

栗坪良樹 『新批評近代日本文学の構造 第1近代文学の作者』

第三章作者の内側と外側 作者の対社会の抵抗と順応―横光

利一の『旅愁』をめぐる― 173〜186頁 高田瑞穂・林恵子

編 国書刊行会 '79 (昭和54) 年11月30日

↓『批評』58、70『文学的決算』収録 第二部《座談会》文学史の再検討 横光利一とその時代 351、369頁 編者代表佐伯彰一 番町書房 '70 (昭和45) 年12月15日

寺崎 浩 『青の時』 青の時 5、189頁 現代書房 '65 (昭和40) 年12月25日

一九六六(昭和四十二)年

清水 信 女性 作家と女性の間⁵⁰ 横光利一 老人になりた
い願ひ 「朝日新聞」 日刊 三〇五三二号 中部本社版 (11)
面 朝日新聞名古屋本社 '66 (昭和41) 年7月9日(土曜日)
↓『作家と女性の間』収録 老人になりたい願ひ―横光利一
― 228、231頁 現文社 '67 (昭和42) 年3月25日

保昌正夫 『日本文学全集』38 横光利一集 作家と作品 403、
432頁 編集委員伊藤整・井上靖・中野好夫・丹羽文雄・平野
謙 装幀伊藤憲治・挿絵佐野繁次郎 集英社 '66 (昭和41)
年11月12日

↓『日本文学全集豪華版』38 横光利一集 収録 作家と作品
横光利一 407、437頁 『上海』について 424、426頁 集英
社 '73 (昭和48) 年6月8日

一九六八(昭和四十三)年

高橋俊夫 名作案内 横光利一作「蠅(はえ)」 「高校文芸」
第2巻第2号2月号 50、56頁 東京出版センター '68 (昭
和43) 年2月1日

↓『文学のトポス―日付のある文章』収録 第四近代の作家
と作品 Ⅲ横光利一―「蠅」の構造(1968) 176、190頁 古川
叢書 古川書房 '90 (平成2) 年3月1日

祖父江昭二 〈近代日本文学と中国7〉 横光利一『上海』 「中
国語」 第105号 10月号 34、35頁 中国語友の会 '68 (昭
和43) 年10月1日

↓『近代日本文学への射程―その視角と基盤と―』収録 第
一部近代日本の文学と朝鮮・中国―国民としての反省、文学
研究者としての責任― 近代日本文学と中国⁷ 横光利一
『上海』 67、71頁 未来社 '98 (平成10) 年9月20日

川端康成 新感觉派 「日本現代文学全集」第67巻 新感觉派文
学集月報 第97号 1、2頁 講談社 '68 (昭和43) 年10
月19日

↓『川端康成全集』第19巻 文学時評Ⅳ 収録 昭和四十年以
降 新感觉派 228、229頁 新潮社 '74 (昭和49) 年3月30日
↓『川端康成全集』第32巻 評論(4)文芸評論 収録 四 新感
覚派 631、633頁 新潮社 '82 (昭和57) 年7月20日

一九七〇(昭和四十五)年

近代文学研究会 新感觉派研究 その一―横光利一の初期の作
品― 「武庫川国文」 第2号 51、60頁 武庫川女子大学国
文学会 '70 (昭和45) 年3月15日

一九七二(昭和四十六)年

清水 信 短歌の周辺 32 横光利一 「短歌」 第18巻第5号5
月号 66、67頁 角川書店 '71 (昭和46) 年5月1日

一九七四(昭和四十九)年

中里喜昭 『宮本百合子』 第五章風のそよぎ 嵐のそよぎ
(一九三〇―一九三二年) 新感觉派その他 166、170頁 汐文

年10月

↓『小田切秀雄著作集第一巻人間の信頼について』収録 さ
まざまな思想の新しい関係について 近代日本文学の評価軸
の訂正のために 1 横光利一『上海』の評価 254〜271頁 法
政大学出版局 '70(昭和45)年9月10日

↓『横光利一 叢書現代作家の世界1』収録 作家論・作品
論 「上海」 131〜137頁 井上謙編 文泉堂出版 '78(昭和
53)年7月1日

↓『昭和の作家たちI』収録 横光利一 9〜31頁 レグル
ス文庫108 第三文明社 '79(昭和54)年1月16日

↓『文芸読本横光利一』収録 『上海』 111〜114頁 河出書房
新社 '81(昭和56)年4月3日

↓『特装本文芸読本横光利一』収録 『上海』 111〜114頁 河
出書房新社 '84(昭和59)年3月30日

↓『横光利一全集月報集成』収録 『上海』批評集 小田切
秀雄氏 179〜179頁 一部のみ収録 保昌正夫編 河出書房新
社 '88(昭和63)年12月30日

↓『小田切秀雄全集第13巻 作家論IV』収録 第二部昭和の
作家たちI 1 横光利一 昭和文学再検討の視点 170〜185頁
小田切秀雄全集編集委員会 勉誠出版 '00(平成12)年11月
20日

一九五五(昭和三十)年

奥野健男 「由良之助」「シルクハット」「王宮」など 「横光利
一全集第7巻家族会議他 月報(1)」 3〜6頁 河出書房

'55(昭和30)年6月25日
↓『横光利一全集月報集成』収録 「由良之助」「シルクハッ

ト」「王宮」など 143〜146頁 保昌正夫編 河出書房新社

'88(昭和63)年12月30日
↓『奥野健男作家論集2』収録 横光利一 213〜217頁 泰流
社 '77(昭和52)年5月15日

二反長 半 『少女少女のための現代日本文学全集17 横光利
一・川端康成集』横光利一集 解説 94〜105頁 責任編集
久松潜一・伊藤整・福田清人 東西文明社 '55(昭和30)年
6月30日

菊岡久利 『作家とその名作』横光利一 125〜128頁 著者代表
亀井勝一郎 毎日新聞社 '55(昭和30)年10月10日

一九五六(昭和三十一年)年

神澤和夫 無方法者としての横光利一 「文学史研究」第3号
1〜10頁(92〜101頁) 大阪市立大学文学部国語国文学研究室
内 文学史研究会 '56(昭和31)年7月25日
桐山醇吾 『上海』―横光文学の考察― 「渋谷文学」第3号
9〜15頁 渋谷文学社 '56(昭和31)年11月12日

一九五七(昭和三十二年)年

鷲頭時子 横光利一の誠実―「機械」を中心に― 「ふじ」第
6号 36〜42頁 藤女子短期大学 '57(昭和32)年3月1日

一九六五(昭和四十)年

佐伯彰一・大久保典夫・日沼倫太郎・保昌正夫・司会村松 剛
文学史の再検討(その2)座談会 横光利一とその時代 「批
評」1965年夏季号 復刊第2号 122〜140頁 南北社 '65(昭
和40)年7月1日

光利一追悼号 8～11頁 発行所文学界社 発売所銀屋閣
'48 (昭和23) 年4月1日

↓『近代作家追悼文集第三十一卷 三宅雪嶺、武田麟太郎、織田作之助、幸田露伴、横光利一』収録 横光利一 横光さんの眼 293～296頁 ゆまに書房 '97 (平成9) 年1月24日

一九四九(昭和二十四)年

寺田 透 『作家私論』 横光利一 観念のドンキホーテ 130～154頁 改造社 '49 (昭和24) 年6月30日

↓『作家論集 理智と情念下』収録 横光利一 観念のドンキホーテ 16～33頁 晶文社 '61 (昭和36) 年4月10日
↓『寺田透・評論I 1935―1949 現代一瞥』収録 1947 観念のドンキホーテ 88～108頁 思潮社 '69 (昭和44) 年3月15日

一九五〇(昭和二十五)年

村松梢風 横光利一―近代作家伝(四)―「新潮」第47巻第12号12月号 第54号 68～84頁 新潮社 '50 (昭和25) 年12月1日

一九五一(昭和二十六)年

伊藤 整 『文学読本 人と作品・現代日本文学篇』I 新興芸術派・新心理主義文学 132～143頁 塙書房 '51 (昭和26) 年11月30日

一九五二(昭和二十七)年

磯貝英夫 所謂観念性について―横光利一をめぐる―「日本文学研究」昭和27年1月号 第29号 特集昭和文学 1

『8頁 日本文学研究会編 誠和書院 '52 (昭和27) 年1月1日

↓『昭和文学作家研究』収録 二、横光利一―いわゆる観念性について― 65～78頁 柳原書店 '55 (昭和30) 年5月30日

川端康成 新感覚派 「文芸」 第9巻第6号6月号 特集日本文学の五十年・1 文学者は何を主張して来たか 28～30頁 河出書房 '52 (昭和27) 年6月1日

↓『川端康成全集第19巻 文学時評IV』収録 昭和二十年代新感覚派 152～156頁 新潮社 '74 (昭和49) 年3月30日
↓『川端康成全集第32巻 評論(4)文芸評論』収録 四 新感覚派 626～630頁 新潮社 '82 (昭和57) 年7月20日

一九五四(昭和二十九)年

小田切秀雄 『岩波講座文学の創造と鑑賞第一巻文学の鑑賞(1) 日本』の文学作品 横光利一『上海』 132～146頁 編集者代表

竹内好 岩波書店 '54 (昭和29) 年11月29日
↓「文芸臨時増刊 横光利一読本」収録 作品論 上海 91～94頁 第12巻第8号 河出書房 '55 (昭和30) 年5月25日
↓「横光利一全集第2巻上海 月報(5)」収録 『上海』批評集 小田切秀雄氏 7～7頁 一部のみ収録 河出書房 '55 (昭和30) 年10月25日
↓『さまざまな思想の新しい関係について』収録 II 近代日本文学の評価軸の訂正のために 1 横光利一『上海』の評価 94～112頁 河出新書200 河出書房 '56 (昭和31) 年4月30日
↓『近代日本の作家たち増補版』収録 横光利一―昭和文学再検討の視点― 636～655頁 法政大学出版局 '62 (昭和37)

三、『上海』研究文献書誌

一九二八(昭和三)年

平林初之輔 文芸時評(三) 小説一「東京朝日新聞」第一五二六九号 夕刊 第二(五)面 東京朝日新聞社 '28(昭和3)年11月11日(日曜)

一九三四(昭和九)年

松尾光至 評論 横光利一の文学 「紋章」に関するノート
「制作」第1巻第11号11月号 7~12頁 制作社 '34(昭和9)年10月25日

一九三五(昭和十)年

武田麟太郎 横光利一論 「改造」第17巻3号3月号 202~210頁 改造社 '35(昭和10)年3月1日
↓ 『随筆集 好色之戒め』収録 横光利一 41~60頁 文圃堂書店 '35(昭和10)年12月14日
↓ 『武田麟太郎全集第十三巻』収録 随筆 横光利一 67~81頁 六興出版社 '49(昭和24)年8月5日
↓ 『横光利一全集第四巻花花・雅歌 月報(4)』収録 横光利一論(三) 2~5頁 河出書房 '55(昭和30)年9月25日
↓ 『日本現代文学全集80 武田麟太郎・島木健作集』収録 武田麟太郎集 横光利一 169~174頁 編集伊藤整・亀井勝一郎・中村光夫・平野謙・山本健吉 講談社 '63(昭和38)年10月19日
↓ 『日本文学研究資料叢書 横光利一と新感覚派』収録 横光利一論 21~27頁 有精堂出版 '80(昭和55)年5月1日

二

↓ 『日本現代文学全集80 武田麟太郎・島木健作集 増補改訂版』収録 武田麟太郎集 横光利一 169~174頁 編集伊藤整・亀井勝一郎・中村光夫・平野謙・山本健吉 講談社 '80(昭和55)年5月26日

↓ 『横光利一全集月報集成』収録 横光利一論(三) 166~169頁 保昌正夫編 河出書房新社 '88(昭和63)年12月30日
↓ 『日本三文オベラ 武田麟太郎作品選』収録 横光利一 204~218頁 講談社文芸文庫 たう1 講談社 '00(平成12)年7月10日

↓ 『武田麟太郎全集第12巻』収録 随筆 横光利一 67~81頁 日本図書センター '03(平成15)年1月25日
深田久彌 『日本現代文章講座第八巻 鑑賞篇』横光利一の文章 299~314頁 厚生閣 '35(昭和10)年3月12日

一九四七(昭和二十二)年

杉浦明平 横光利一論—「旅愁」をめぐって— 「文学」第15巻第11号11月号 29~40頁 岩波書店 '47(昭和22)年11月20日
↓ 『作家論』収録 横光利一—「旅愁」をめぐって— 142~157頁 草木社 '52(昭和27)年2月1日

一九四八(昭和二十三)年

古谷綱武 逝ける横光利一—人と作品— 「新潮」第45巻第1号1月号 55~58頁 新潮社 '48(昭和23)年1月1日
石川達三 作家の死 「新潮」第45巻第2号2月号 2~4頁 新潮社 '48(昭和23)年2月1日
橋本英吉 横光さんの眼 「文学界」第2巻第4号4月号 横

横光利一『上海』書誌稿(五)

村田好哉

本稿は以下に掲げるものの続稿である。

1、横光利一『上海』書誌稿

『国際都市上海』所収 261～325頁 産研叢書1 上海プロジェクト班 大阪産業大学産業研究所発行 一九九五(平成七)年九月三十日

2、横光利一『上海』書誌稿(承前)

『大阪産業大学論集 人文科学編』第八十七号 55～73頁
大阪産業大学学会 一九九六(平成八)年三月一日

3、横光利一『上海』書誌稿(三)

『大阪産業大学論集 人文科学編』第九十一号 27～42頁
大阪産業大学学会 一九九七(平成九)年三月十五日
↓『中国関係論説資料』98年(平成10)年分第40号第2分冊(上)
『文学語学』収録 横光利一『上海』書誌稿(三) 187～194頁 論説資料保存会 一九九九(平成十一)年十二月十日

4、横光利一『上海』書誌稿(四)

『大阪産業大学論集 人文科学編』第百十号 1～13頁 大阪産業大学学会 二〇〇三(平成十五)年六月三十日

なお本稿は前記書誌の補遺編として、一九二八(昭和三)年から一九九八(平成十)年までの横光利一『上海』研究文献目録の作成を試みたものである。

一、『上海』テキスト一覧

『日本文学全集38横光利一集』上海 242～393頁 集英社
(昭和41)年11月12日

二、研究史及び解題

十重田裕一「研究展望 横光利一研究展望(一九九九・四)二〇〇〇・三」『川端文学への視界 川端文学研究二〇〇〇機関誌年報』第15号 161～166頁 川端文学研究会編 グローバルメディア発行所 銀の鈴社編集・制作 '00(平成12)年6月10日

山本亮介「研究動向 横光利一『昭和文学研究』第47集 102～106頁 昭和文学会編集発行 発行所笠間書院 '03(平成15)年9月1日

・文献書誌

玉村 周・松村 良「横光利一参考文献目録 会報第一号・二号文献目録(一九九九年～二〇〇二年)遺漏、および追加(二〇〇三年分を含む)『横光利一文学会会報』第3号 10～14頁 横光利一文学会事務局 '03(平成15)年4月30日